

# 魚梁瀬千本山と 懐かしい林鉄



写真1

森林鉄道

## ヤナセスギとその保護林

高知県東部を流れる奈半利川の上流部にある魚梁瀬地区は、ヤナセスギの産地として林業・木材産業が発展してきた地域であり、かつては、その森林資源を搬出するため、森林鉄道(林鉄)が活躍していました(写真1)。

四国森林管理局では、ヤナセスギ資源の持続的な利用と合わせて、大正期から一部を保護林に設定し、保全管理を行っています。今回は、こうしたヤナセスギや林鉄遺構といった資源を活用し、地元と連携して行っている地域活性化の取組について、ご紹介します。

ヤナセスギは、高知県東部の奈半利川流域などに分布している天然生のスギで、大きなものでは、樹齢は2000〜3000年、樹高50m、直径200cmにもなる銘木として知られています。「高知県の樹」としても親しまれており、中には、鉢巻き落ししの杉、親子杉、真優美杉等の名前のついたスギもあります(図1)(写真2)。

ヤナセスギの特徴には、枝が小さくて少なく、通直な幹を持っていることや、樹齢を重ねても成長の衰えが少なく2000年を越えてもなお成長を続け



千本山のヤナセスギ



ることなどが挙げられます。また、桃色がかった材質に魅力があり、その優位性が高く評価され、天井板などとして日本建築に主に利用されています。

奈半利川の最上流部にある千本山の国有林には、ヤナセスギがまとまって分布しており、四国森林管理局では、ヤナセスギを持続的に利用すること

合わせて、貴重なヤナセスギを後世に残していくため、その一部を大正7年から「保護林」として設定しています。その後、昭和2年に周辺の森林も保護林に加え、更に平成2年に、名称を「林木遺伝資源保存林」に変更し、現在に至っています。



図1

位置図

## 魚梁瀬森林鉄道

魚梁瀬森林鉄道は、千本山をはじめとする森林資源を搬出するため、明治末期から軌道の敷設が始まり、最盛期には、現在の高知県安田町や馬路村など3町2村を結んで運行されていました。

林鉄は、木材の搬出だけでなく、地域を結ぶ唯一の交通機関として、住民や生活物資の輸送にも活躍していましたが、トラック輸送が台頭してきたことなどから昭和38年に廃線となりました(写真3)。

現在も当時の面影を残す遺構が、国有林をはじめとして、この地域に残されており、地元の中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会などが保存に取り組んでいます。また、平成21年には、林業技術史上の貴重な遺構がまとまって良好に保存されていることなどから、国の重要文化財の指定を受けました。



写真3

当時の馬路製材所付近

## 千本山と林鉄ツアーの開催

四国森林管理局では、平成23年から、こうした林鉄遺構や林鉄で運ばれた木材の大きさを伝える千本山の保護林といった地域の資源を活用し、地域の活性化につなげるため、「中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会」及び馬路村公認「むらの案内人クラブ」／魚梁瀬山の案内人クラブといった地元の方々と連携して、千本山と林鉄を巡るツアーを開催しています。初回の平成23年には、募集人員20名のところ倍以上の応募があったことから、その後、毎年開催しており、これまで3回実施し、参加者は延べ90名となっています(写真4)。

イベント内容は次のとおりです。

- ① 現地へ向かうバスの中で森林鉄道の歴史を知るため「中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会」が作成したビデオを視聴。
- ② 林鉄遺構の現地見学では、安田川沿いに残る明神口橋とオオムカエ隧道及び馬路村入り口にあってレールの残る五味隧道等について、「むらの案内人クラブ」の説明を聞きながら、先達の施工技術を見学。
- ③ 実際に使用していた汽車が復元された丸山公園の魚梁瀬森林鉄道に乗車。子供達には大変好評です。
- ④ 魚梁瀬のシンボル千本山を訪れ、

「魚梁瀬山の案内人クラブ」の説明を聞きながら美林の広がる展望台まで散策。

参加者からは「歴史を大切に保存し、伝えていくことは意義のあることだと思った。」「ヤナセスギが大切に守られていることを知り嬉しかったです。癒されました。」等の声も聞かれました。



写真4

林鉄ツアーの様子

## 林鉄写真展の開催

平成24年末に、当時の新木雅之局長が、局長室に保管されていた大正10年〜昭和10年頃の林鉄等の写真を見つけました。白黒写真ながら、当時の様子が生き生きとよみがえる大変貴重な写真であり、また、このままのアルバムによる保存では劣化する恐れがあることから、電子データとして今後に残していくことにしました。

電子化された写真は、ホームページに掲載(※)し、さらに、一般の方にも広くご覧いただくため、平成25年11月11日から26年1月31日まで四国森林管理局一階にある森林ふれあい館で、写真展を開催しました。この写真展は多くのマスコミにも紹介され、286名の来場者があり大変な反響を呼びました(写真5)。

また、これらの写真は、当時の四国における林業の状況を示すまとまった貴重な資料として、平成26年3月に日本森林学会が選定する林業遺産に登録されました。

※ <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/koho/shinrinintetudou.html>



写真5

林鉄写真展の様子

## 今後の取組

四国森林管理局では、今後も地域に根ざした行政機関として、地域の方々と連携した林鉄遺構ツアーの開催や国有林内の林鉄遺構の調査への協力、林鉄写真等の提供などを通じて、地域の活性化に取り組んでいくとしています。